

小学校特別の教科道徳

1 道徳科の指導と評価について

(1) 全教育活動を通じて行う道徳教育の推進・・・カリキュラム・マネジメント

学校が主体的に児童生徒や地域の実態など様々な事項を的確に把握して、育てたい児童像を明確にして目標を設定し、計画を立てて、教職員が共通理解、共通実践できるようにする。そのためには、校長のリーダーシップ、学校の組織力が求められる。そして、分かりやすく推進していくことが大切である。

- 具体例 ・目指す児童像の設定 ・目指す児童像に関連の深い内容項目について検討
・年間指導計画の内容項目の配当時間数の工夫 ・道徳教育全体計画別葉の作成
・年間指導計画の見直し ・年間指導計画の主題配列の工夫
・様々な内容項目と関連させた指導
・家庭や地域社会との連携 など

(2) 道徳教育の要となる道徳科の授業の充実

① 道徳教育と道徳科の関係

学校における道徳教育は、特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達の段階を考慮して、適切な指導を行うこと。
「小学校学習指導要領 第1章 総則」

② 道徳教育と道徳科の関連を図るために・・・補充・深化・統合

特に、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育として取り扱う機会が十分でない内容項目に関わる指導を補うことや、児童や学校の実態等を踏まえた指導をより一層深めること、内容項目の相互の関連を捉え直したり発展させたりすることに留意すること。「第3章 特別の教科 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の2

※ 全教育活動を通じて行う道徳教育の中で、道徳科は、各活動における道徳教育の要としてそれらを補ったり、深めたり、相互の関連を考えて発展させたり統合させたりする役割を果たす。

③ 道徳科の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

「小学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳」

※ 道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲、道徳的態度の道徳性を構成する諸様相には、特に序列や段階があるということではない。一人一人の児童が道徳的価値を自覚し、自己の(人間としての)生き方についての考えを深め、日常生活や今後出会うであろう様々な場面、状況で、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質を意味している。

(3) 道徳科の指導について

- ① 年間指導計画において、指導の時期、主題名、ねらい・内容項目、教材名等を確認し、指導の意図を明確にした授業構想を考える。
- ② 授業構想のポイント1 ねらいとする道徳的価値(内容項目に含まれるもの)について、学習指導要領に基づき、明確な考えをもつ。
⇒ 道徳的価値の意義を理解し、指導の考え方を明確にする。
- ③ 授業構想のポイント2 ねらいとする道徳的価値について、日頃どのような指導を行い、その結果としての児童にどのようなよさや課題があるのか、その上で、本時で学ばせたいことは何かを明らかにする。 ⇒ 日頃の教育活動を振り返り、児童の実態を明確にする。
- ④ 授業構想のポイント3 授業者の明確な意図、児童の実態をもとに、教材をどのように活用し、どのような学習を行うのかを明らかにする。

⇒ 指導の意図を明確にした教材活用，学習展開を明確にする。

※ 指導の明確な意図となる道徳的価値の捉え方，児童の学習状況や実態と教師の願い，使用する教材の特質やそれを生かす活用方法，これらすべてが道徳科の学習指導案の主題設定の理由にあたる。

※ 同じ教材でも，目の前の児童の実態に合わせてねらいを設定することから，教材のどの部分に注目させ，どのような学習をするかは，授業者によって異なる。

(4) 道徳科における評価について

① 児童の学習状況を見取る評価

本時の授業での指導で，児童がどのような学習を行うことが，内容項目を手掛かりとして道徳性を養うことにつながるのか，意図するような学習をさせるためには，教材のどの場面を活用するとよいのかなど，本時の指導で重視する評価の視点を明確にもち，授業を構想し，児童の学習状況を見取りながら実践することが重要である。

② 道徳科の学習過程や指導方法に関する評価の観点の例

ア 学習指導過程は，道徳科の特質を生かし，道徳的価値の理解を基に自己を見つめ，自己の生き方について考えを深められるよう適切に構成されていたか。また，指導の手立てはねらいに即した適切なものとなっていたか。

イ 発問は，児童が多面的・多角的に考えることができる問い，道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いなど，指導の意図に基づいて的確になされていたか。

ウ 児童の発言を傾聴して受け止め，発問に対する児童の発言などの反応を，適切に指導に生かしていたか。

エ 自分自身との関わりで，物事を多面的・多角的に考えさせるための，教材や教具の活用は適切であったか。

オ ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるための指導方法は，児童の実態や発達段階にふさわしいものであったか。

カ 特に配慮を要する児童に適切に対応していたか。

「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第5章 道徳科の評価 第3節 道徳科の授業に対する評価」

③ 道徳科における評価の意義

学習における評価とは，児童にとっては，自らの成長を実感し，意欲の向上につなげていくものであり，教師にとっては，指導の目標や計画，指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるものである。

道徳教育における評価も，常に指導に生かされ，児童の成長につながる評価でなくてはならない。

⇒ **指導と評価の一体化**

2 小学校道徳科における1人1台端末の活用について

(1) 道徳科の目標にある学習がより効果的に行われるようにするための手段としてのICT活用

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき，よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考え，自己の生き方についての考えを深める学習を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。

※ 道徳科の授業では，答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の子供たちが自分自身の問題と捉え，向き合う，「考え，議論する道徳」への転換，「主体的・対話的で深い学び」の視点からの改善が求められる。

(2) 道徳科の授業におけるICTの効果的な活用例（文部科学省HP GIGAスクール構想のもとでの小学校特別の教科道徳の指導について 参照）

3 参考となる資料等について

(1) 小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）

(2) 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編（文部科学省）